

はじまりの風景

朝早く目覚めた時 もう一度
寝直した1時間に見た夢
部屋の中から白いとびら
開けた目の前に輝く緑

何かのトロフィーの頭をなでた後に
誰かの後を歩きとびらくぐった

後ろの部屋から聞こえてくる
聞いたことのあるミュージック
その軽快さに溶け込むような
明るい空が眩しい

短い時間で感動を
味わうはじまりの風景
どうしてこんなに素敵な
夢はすぐに覚めるのだろう

ゆめの中の時間 早くすぎて
いつの間にか夜になって
部屋の中から黒いとびら
開けた目の前に輝く星たち

金色の蝋燭台手にして進む自分がいた
3本の蝋燭から放つ光揺れる

後ろの部屋から聞こえてくる
聞いたことのあるミュージック
その安らかさに合わせるような
またたく星が眩しい

短い時間で感動を
味わうはじまりの風景
どうしてこんなに素敵な
夢はすぐに覚めるのだろう

新たなスタート

まわり見てガマンしてたけど
今しかできないことある
覚悟を決めて心に誓って
誰にも遠慮することない

まだ見ぬ 世界夢見て
そして
震える体抑えて

幾たびも思いとどまって
なすがまま流れに任せた
変化求めて新しいこと始めて
だけどこれまでのことも大切にして

新たな チャレンジする
そして
不易流行つらぬいてゆく

まだ見ぬ 幸せ信じて
そして
震える体抑えて

動き始める

アーリーサマー

柔らかだった日差しだんだん強くなり
夏の足音が確かに聞こえてくる
明るい空が時々厚い雲に隠れて
濡らす木々の葉を
一層濃い色にさせる

何かの始まり予感させてくれる
今日の朝日はもやで染まる

庭の片隅で 黄緑色の粒々
つぼみつける前の小さな額アジサイ
咲いたのか咲かなかったのか
毎年忘れてしまう
謙虚な思いやりを
今年は気に留めてみよう

見返り求めぬ優しさ感じる
今日は夕方 過ぎても明るい

何かの始まり予感させてくれる
今年の夏も 暑くなるよ

アスピーテの中で

気持ちがまた一つ空に近づく
頂の中にあるこの沼
輝くエメラルド水面照らす
曲がりくねった道にトドマツ

吹き抜ける風は今 夏の木立の中
音を立てて胸に染み込むように
太鼓の自然によるロマン映す姿
まぶたの裏押し寄せてくる

気持ちがまた一つ切り替わる
野鳥のさえずり響き渡る
昨日までのことは忘れよう
高原に溶け込んでリフレッシュ

沼に伝えられる悲しい伝説
閉じ込められた人が潜むと
確かにこの沼の綺麗な水
どこに流れているんだろうか

吹き抜ける風は今 夏の木立の中
音を立てて胸に染み込むように
太鼓の自然によるロマン映す姿
まぶたの裏押し寄せてくる

心がまた一つ洗われる
自分の悩みなんて小さい

雨上がりの街

雨に濡れて水たまり白く光る
インターロッキング
黒い色に変わる
新芽の木から落ちた黄色い葉
植え込みから飛び散った花びら
ばらまかれてもその一つ一つ
まだ生き物のようにアピール

全てが鮮やか眩しい色に光る
パステルカラーに
薄陽が差し込んで
雨の風景ついさっきまで
色をなくしてしまってたのに
今 踏みしめてる洗いたての街
紛れのないカタルシス感じる

エスカレーター

人生は下りのエスカレーター
まさに毎日上り続けていくように
立ち止まったその瞬間から
いつの間にか立場も下がりゆく

前に進もうとしても
いつもとおんなじペースならば
下がることもないけれど
上がることもない

時にはペースを上げて
しっかり頑張らないと
ゆっくり休むことさえ
ままならないこと

小さな部屋に大きなエアコン
わずかな力で静かに冷やすように
30%の力でペース保てるように
して行かなければ

周り見ようとしても
そんな気持ちすら失せて
ひとしきり自分のことだけ
やってしまうことになる

時にはペースを上げて
しっかり頑張らないと
現状維持は衰え
待つだけのこと

またはじめよう

今日までしてきたこと
振り返ることもなく
ひたすらに進むだけで
ただがむしゃらに

今日は少しだけ後ろを振り向いて
そして立ち止まり過去にすがってみる

こんなこともあった
あんなこともあった
今思い返すと
なんてきまり悪いのだろう

だけどそんな中で
これだけのことができた
それも全て受け止め
新しくまた始めよう

全ては自分の中で
良いと決めて走ってきた
誰に相談もしないで
ただがむしゃらに

今日はひっそり一人の空間
そして目をつぶり沈黙の中で

こんなこともあった
あんなこともあった
今思い返すと
なんてきまり悪いのだろう

だけどそんな中で
これだけのことができた
それも全て受け止め
新しくまた始めよう